

実施過程	実施内容・要点	時間 70分	プレ ゼン	進行者の主な指示例・発問例	*留意点 【 】内は使用する資料名
はじめに	◎本校内研修の概略説明 ○ウォーミングアップ 1 ねらいの確認 (1) 相談面接における基礎・基本を身に付ける (2) 保護者との 協力関係 を結ぶ力を高める	5	1 2 3	[説明] 今日は「保護者との相談面接」についての研修を行います。 [説明] エクササイズ「ミラクルじゃんけん」をやってみましょう。黙ってじゃんけんをして全員が同じ手の形になるまで続けます。さあ、何回目で全員が同じ手の形になるでしょう。（全員が同じ手の形になったら終わる） [説明] 先生方は声に出して話さなくても協力して同じ手の形を出そうとしていましたね。保護者と教師もこのように同じ方向を向いて 協力関係 を保ちながら子どもの教育を進めたいものですね。では今日の研修の内容とねらいを説明します。 [説明] 今日の研修内容は『保護者との相談面接』です。ねらいは「①相談面接における基礎・基本を身に付ける ②保護者との 協力関係 を結ぶ力を高める」です。それではまず相談面接の基礎・基本から説明します。	【説明資料】 *研修の目的をきちんと押さえてから研修に入る。 *ミラクルじゃんけんとは 全員無言で一斉にじゃんけんをして、できるだけ早く全員が同じ手の形を出すようにする。じゃんけんをする度に周りをよく見てみんなに合わせるのがコツである。
I 説明	2 相談面接の基礎・基本 (1) 何のために相談面接を行うのか → (問題) を解決するため (2) 相談面接の基本 ①相談面接の心構え→よく聴くこと（傾聴） ア 相談者を理解 相手を受容 イ 感情を正しく理解し感じる ウ 協力関係 を築く ②面接場面の設定 ア 相談面接の場所、時間の設定 明るくて、人の出入りのない所 相談時間の設定 ③面接者との位置関係 対面 対角線 角度をもって 並んで (3) 留意点 ① 禁「押し売り」 ② ペーシング ③「わかる」ことに努める	3 5 2 2 3 4 6	4 5 6 7 8 9 10 11	[説明] ここから説明する相談面接の説明は対児童・対保護者共通の事項です。 [発問] まず初めに先生方に質問します。なぜ相談面接を行うのでしょうか。（ ）に適語を入れてください。 [説明] 正解は「(問題)を解決するため」です。ただしここでいう問題とはすでに起こってしまった問題の他に、予防的・開発的な問題も含まれます。相談面接は何か問題が起こってから行うだけではなく、児童・保護者と普段から予防的・開発的に教育相談を行いたいものです。次に相談面接の心構え、面接場面の設定、面接者との位置関係について説明します。 [説明] 相談面接の心構えについて説明します。まず初めに相談者を理解し、相手を 受容 しようとする心のゆとりを持って相談面接には臨んでください。次に、精神的安定を保ち、相談者の感情を正しく理解し感じることができるよう努めてください。また、相談者との 協力関係 を築くように努めてください。大切なことは 相談者の話をよく聴く（＝傾聴すること） です。次に面接場面について説明します。 [説明] 場所は明るく、人の出入りのない所が好ましいです。また、相談者の負担にならない無理のない相談時間を設定してください。いつ終わるか分からない相談は不安ですよ。次に位置関係について説明しましょう。 [説明] 対面→この位置関係は視線が正面からぶつかるので対決の位置関係とも言われ、相談面接にはあまりお勧めできません。対角線→この位置関係はお互いの視線が合うことも少なく、比較的話しやすい位置関係です。角度をもって→比較的、話はしやすいです。相談者との距離が近くなるので圧迫感のない距離を保って座ってください。並んで→児童と相談面接するときにはあまり使いません。小学校低学年ではよく活用されています。位置関係については相談面接に応じて使い分けてください。次に留意する点について説明します。 [説明] まず大切なことは相談者に面接者の気持ちや意見を押し付けないことです。相談の主体は担任ではありません。次に、 ペーシング を心がけることが大切です。 ペーシング を心がけることで相談者は話がし易くなります。（留意点参照）何よりも「わかる」ことに努めることが大切です。では次に技法について説明します。 [説明] 受容 →相談者の心情を推し量りながら聞くことです。全てを許容することとは違います。 繰り返 し→かすかな声も繰り返してもらおうと自分の言葉が届いている実感が持てます。 支持 →相談者の心情に対して励ましやいたわりを述べ、言葉はもちろん背景にある心情を支えます。 質問 →話の明確化、意味を確認するとき、より積極的に聞いていることを伝えるときに使います。次に保護者との相談面接で留意すべき点について説明します。 [説明] 初めに保護者のタイプを紹介しましょう。I型は～ II型は～ III型は～（それぞれの①～③を話す）IV型が一番バランスがとれていて理想的な保護者です。 [説明] では、相談面接における保護者との協力関係づくりを具体的に説明します。まず保護者がいらっしゃったらはじめに ねぎらいの言葉 をかけます。（留意点参照）次に保護者の話を十分に聞きます。まずは 傾聴 、後で助言が原則です。保護者の がんばり を認めることも大切です。保護者は自信を失っていることもあるからです。具体的な提案をして約束したことはお互いに実行するようにしましょう。いつまで、誰が、何をするか確認しましょう。教員と一緒に問題に取り組み、保護者とともに がんばる姿勢 を示しましょう。相談面接後の子どもの様子や約束の進行状況を保護者へ連絡し、情報交換しましょう。	【説明資料】 *問題の意味をきちんと押さえてから研修に入る。 *心に余裕を持たずに保護者と相談面接を行ってしまい、信頼関係を築くことができなかつた事例等を出す。 *時間設定の無い面接は不安 例「いつ終わるんだろう」 *時間があればペアで体験させる。 *ペーシング 相談者の声のトーン、口調、速さ等を合わせること *受容 相談者の心情を理解すること *許容 相談者の全てを受け入れ、たとえ指導しなくてもいけないことがあってもしない状態 *「お忙しい中、よく来ていただきました」 *×「そんなことわかっています」×「それは違います」 *○「お母さんが○○していることってすばらしいですよ」 *提案したことはすぐに実行することが大切である。 *「学校と家庭で○○君のためにがんばりましょう」 *テキストの例を参考に会話中心で説明すると理解が深まる。
II 演習	○保護者との定期相談面接 【事例】学習習慣が身に付かないことを訴える母親	35	12 ～13	[説明] それではこれまで説明した基礎・基本及び技法を生かして演習をしてみましょう。（演習進行案を参照） [説明] 演習お疲れ様でした。まとめに入りましょう。	【演習進行案・演習資料】
III まとめ	◎進行者のまとめ ◎活動の振り返り	5	14	[説明] 大切なキーワードを確認して終わりたいと思います。（1分程度時間をとる）では私が読んでみます。 「保護者との相談面接で大切なことは相談者の話をよく聴くこと⇒（傾聴）担任と保護者との（協力関係）を結ぶようにする」 です。今回の研修が保護者との相談面接に生かされ、 協力関係 がさらに深まることを期待しています。 (称賛) 先生方の熱心な取組が大変印象に残りました。最後に研修を通しての感想をお願いします。感想への言葉かけの例→こんなふうにできると安心できますよね。	*テキストを基に演習のまとめをする。 *研修を通して感じたことを発表させ、共有を図る。

「保護者との相談面接」

1 研修のねらい

- (1) 相談面接における基礎・基本を身に付ける。
- (2) 保護者との協力関係を結ぶ力を高める。

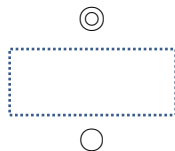
2 相談面接の基礎・基本

- (1) 何のために相談面接を行うのか → () を解決するため

- (2) 相談面接の基本

- ① 相談面接の心構え→大切なことはよく聴くこと（傾聴）
 - ア 相談者を理解し、相手を受容しようとする心のゆとりを持つ。
 - イ 精神的安定を保ち、相談者の感情を正しく理解し、感じることができるよう努める。
 - ウ 肯定的関心を払い、相談者との協力関係を築くよう努める。
- ② 面接場面の設定
 - ア 相談面接の場所、時間の設定
明るくて、人の出入りのない所
相談者の負担にならない相談時間の設定
- ③ 相談面接における面接者の姿勢と位置関係

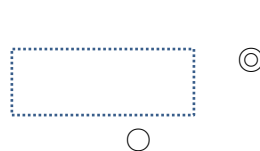
ア 対面して



イ 対角線の位置に



ウ 角度をもって



エ 並んで



- (3) 留意点

- ① 禁「押し売り」・・・相談者に面接者の気持ちや意見を押し付けることをしない。
- ② ペーシングを心がける・・・声のトーンや話し方、態度や表情等を相談者に合わせる。
- ③ 「治す」のではなく、「分かる」ことに努める・・・教師は治療のプロではない。

- (4) 相談面接の基本的な技法

- ① 受容 ⇒ 「受容」と「許容」は別物である

反論したくなったり、批判したくなったりしても、そうした気持ちを脇において、相談者のそうならざるを得ない気持ちを押し量りながら聞く。

例 「それはご心配だったでしょう」…………… 心情を十分に理解する(受容する)

「ついつい叱り過ぎてしまうんですね」…………… これで終わっては許容

その後「叱られてばかりでは○○君もつらいですよ」と助言

- ② 繰り返し ⇒ 「繰り返し」は単なる「オウム返し」ではない

相談者がかすかに言ったことでも、こちらが同じことを繰り返すと、自分の言葉が届いているという実感を得て相談者は自信を持って話すようになる。

例 保護者「どうして私の話を聞かないのでしょうか」

教員「そう、話を聞かないんですね」

テキスト資料（進行者用・研修者用）

③ 支持 ⇒ 支持できない行為は支持しない。そうせざるを得ない感情を支持する。

相談者の心情に対して、励ましやいたわりを述べ、言葉はもちろんのこと、その背景にある感情を支えることができる。

例 保護者「どうして勉強しないのかわかりません」

教員「勉強しないことは心配ですよね」

④ 質問

話を明確化するとき、意味が定かでないときに確認する場合、より積極的に聞いているよということを伝える場合などに質問を行う。

例 「これは学級の児童に知らせてよいですか？」

閉ざされた質問

⇒ 「はい。いいです」(話が苦手な保護者には効果的なこともある)

「これは学級でどのように対応してほしいですか？」

開かれた質問

⇒ 「息子が孤立しないようにしてください」(保護者の思いや願いを引き出す効果がある)

「困っていらっしゃることを教えていただけますか？」

自分のための質問

⇒ 「息子が家で学習しないので困っています」(情報収集の段階では有効である)

「困っていらっしゃることはお家で解決できそうですか？」

相手のためになる質問

⇒ 「家だけでは無理なので先生からも言っていただけますか」(保護者の主体性を尊重できる)

「なんで早く教えてくださらなかったのですか？」

過去否定質問（＝詰問）

⇒ 「そんなこと言っても忙しかったんです」(相手を否定し、敵対関係に陥る危険性)

「早めに連絡を取り合うにはどんな方法がありますか？」

未来肯定質問

⇒ 「私の携帯電話に連絡いただければすぐに連絡がつきます」(協力関係を築きやすい)

3 相談面接における保護者との協力関係づくり

(1) はじめにねぎらいの言葉をかける

⇒ 「お忙しい中、よく来てくださいました」「お暑い中、大変でした」

(2) 十分に保護者の話を傾聴する

⇒ ×「そんなことわかっています」 ×「それは違います」 ×「それは〇〇すべきですよ」

(3) 保護者のがんばり、できていることを認める

⇒ 「お母さんが〇〇されていることって、すばらしいですよね」

(4) 実行可能な具体的な提案をする

⇒ いつまで、誰が、何をするかをはっきり話し、お互いに実行する

(5) 一緒に問題解決に取り組む姿勢を示す

⇒ 「学校と家庭で〇〇君のためにがんばりましょう」「お母さんと一緒になって頑張ります」

(6) 事後の連絡をする

⇒ 児童の様子や約束の進行状況を適宜連絡し、しばらくは情報交換する

※ 詳細は参考資料を参照のこと

まとめ

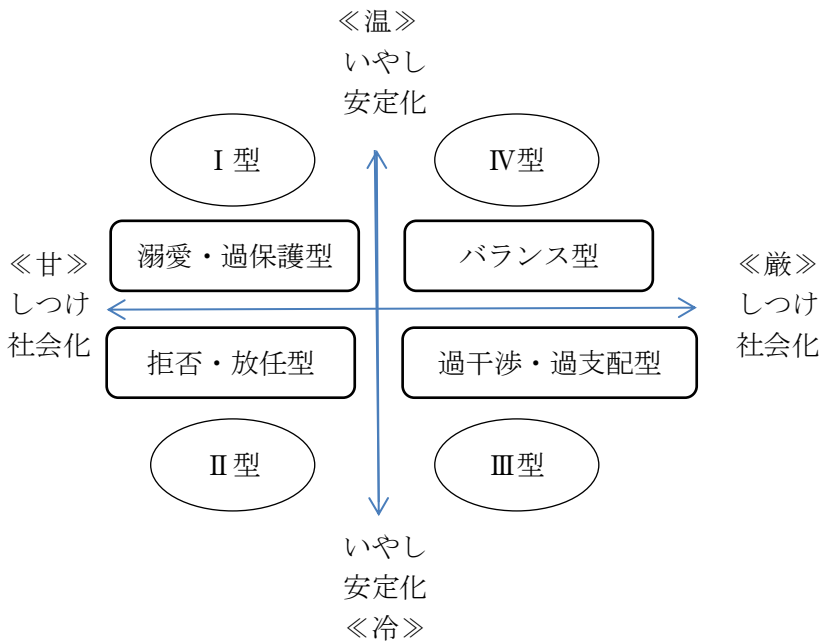
保護者との相談面接で大切なことは相談者の話をよく聴くこと ⇒ (傾 聴)

担任と保護者が (協力関係) を結べるようにする

1 保護者との相談面接の進め方・留意点

段階	考えられる場面	適切な対応の仕方・留意点
連絡	○電話連絡をするとき ○面接を知らせるとき	可能な限り、会って話し合うようにする。 時間に余裕をもって電話する。 日時をしっかりと伝える。 複数の教員で会う（チームで対応する）場合はその旨を予め伝える。
事前	○用件を話すとき ○率直に問題を伝えるとき	「～なので心配しています」と伝え、「ともかく来てください」などの曖昧な言い方はしない。 率直に問題を伝える。 プラスの情報を予め得ておく。
相談面接	○相談面接の始めの場面 ○時間の設定 ○保護者が自発的に来校したとき ○保護者が呼び出されて来校したとき ○メモをとりたいとき ○原因究明に陥りそうになったとき ○保護者が無口でうまく表現できないとき ○保護者に精神的な問題が感じられるとき ○助言をするとき ○問題点を指摘するとき	来校してくれた労をねぎらう。 例「雨の中、大変でしたね」 長くても1時間から2時間の範囲内で設定する。 （間をおいて話し合った方が建設的になりやすい） 保護者の訴えにじっくりと耳を傾ける。 肯定的関心を払い続ける。 （保護者に“問題”を「感じる」と難しい） 「大事なお話ですからメモを取らせてください」と断ってからメモをとる。 問題点、原因にばかり着目しない。 （「どうなりたいのか」に着目する。家庭の問題は扱わず、子どもの問題の解決だけをめざす） 「繰り返し」「明確化」などのカウンセリングの技法を活用する。 無理に説得しようとせずに、保護者との間に少しでも信頼関係を形成し、安心してもらえるように心がける。問題解決のキーパーソンとなる人を探す。 やれていることを強調し、具体的に助言する。 学校としてどのようにやっていこうと考えているか、家庭では何をしてもらいたいのか前向きに話す。
面接後	○アフターケアが必要なとき	誠実に、ねばり強く、さらに必ず事後連絡をする。 必要に応じて第三者からのアドバイスを受ける。

2 保護者のタイプ



I 型

- ① 子離れができない親
- ② 我が子の非を認めない親
- ③ 社交性に乏しい親

II 型

- ① 相手を信用しない親
- ② 被害者意識を持ちやすい親
- ③ 子どもの面倒を見ない親

III 型

- ① 自己主張が強い親
(他罰的、学校批判的、教師非難)
- ② 頑固、物事に固執する親
- ③ 子どもに厳しい親

面接場面での対応の例（基本的には、今の保護者の取組みを認め、助言を与える）

- I のタイプ** 「温かい家庭で、安心して生活しているんですね」（承認）
「さらに、基本的生活習慣などが身に付いていくといいですね」（助言）
- II のタイプ** よいところを見つけるのは難しいが・・・
「学校ではのびのびとしていますよ」「授業にも真剣に取り組めるようになっていきますよ」
の後に
「家庭でさらに安心して生活できるよう声をかけてあげてください」
「時間を守ることから始めてみませんか」
等の助言をする
- III のタイプ** 「きちんと教育をなさっていて素晴らしいです」（承認）
「たまには、保護者の方に甘えたいこともありますよね」（助言）
- IV のタイプ** 「きちんと教育されている上に安心して生活していますね」（承認・称賛）
「たまには親の完全ではない部分などを見せてあげてもいいかもしれませんね」（助言）

保護者との定期相談面接

【事例】 学習習慣が身に付かないことを訴える母親

小学校4年A男の母親との定期相談面接時に学習習慣についての話が出された。

「息子は帰宅するとゲームばかりしていて、家でまったく勉強をしないのです。このままだと勉強についていけなくなるのではないかと心配です。どうしたらよいですか」

A男の知能検査の結果はほぼ平均的だが、こつこつと努力する姿勢が身に付いていない。宿題もほとんど提出しないので放課後に残って学習している。

ただし、生き物が大好きで学校図書館の動物図鑑はほとんど目を通してしている。さらに理科の実験には生き生きと取り組む姿が見られる。

《演習の進め方》

○ 教室で担任が母親と面談するという場面設定で行う。

- ・ 母親役
- ・ 担任役
- ・ 観察者

- (1) 前半の面接 (3分)
- (2) 振り返り (母親役1分 → 担任役1分 → 観察者1分 計3分)
- (3) 後半の面接 (3分)
- (4) 振り返り (母親役1分 → 担任役1分 → 観察者1分 計3分)
- (5) 全体での振り返り (3分)

※ 役割を替えて2回行う。

保護者との定期相談面接

【事例】 学習習慣が身に付かないことを訴える母親

小学校4年A男の母親との定期相談面接時に学習習慣についての話が出された。

「息子は帰宅するとゲームばかりしていて、家でまったく勉強をしないのです。このままだと勉強についていけなくなるのではないかと心配です。どうしたらよいですか」

A男の知能検査の結果はほぼ平均的だが、こつこつと努力する姿勢が身に付いていない。宿題もほとんど提出しないので放課後に残って学習している。ただし、生き物が大好きで学校図書館の動物図鑑はほとんど目を通してしている。さらに理科の実験には生き生きと取り組む姿が見られる。

《演習の進め方》

演習場面の把握・役割分担

「まず演習資料をお読みください（1分）。教室で担任が母親と面談するという場面設定で行います。グループで母親役・担任役・観察者を決めてください（1分）」



前半の演習開始時

「役割は決まりましたか？この演習で問題が解決することはないと考えて行ってください。母親の不満をよく聴き、協力関係の一步を築けるかどうかを焦点です。始めにどのように話すかをお互い考えてください（1分）。話すことは決まりましたか？では始めてください（3分）」



演習の様子を観察する。演習が止まってしまったグループについては初めからやり直す等の指示をあたえる。

前半のグループでの振り返り時

「演習を通して感じたことや協力関係の一步が築けたかを母親役・担任役・観察者の順に率直にお話してください。時間が余った場合は共通の話題等について話を続けてください」（3分）」



後半の演習開始時

「それでは後半の演習に入ります。振り返りを基に後半の面接を行ってください。前半の続きを行っても結構ですし、行き詰っていた場合は仕切り直して初めから行っても結構です。では始めてください（3分）」



振り返りを生かしているグループには全体の振り返りで発表をさせたい。

演習進行案(進行者用)

後半のグループでの振り返り時

「後半の演習はこれで終わりです。前半と同じく母親役・担任役・観察者の順にお話してください。」(3分)



振り返りの様子を観察する。

いい振り返りができているグループは全体の振り返りで紹介したい。

全体での振り返り時

「班の振り返りを全体で共有したいと思います。班の振り返りで話題になり、ぜひ伝えたいことを一つ話してください。なお伝えたいことがない場合は疑問に思ったことでも結構です。では観察者の人に発表してもらいましょう」(3分)

全体での振り返りでは班の取組みを称賛し、よい取組みは全体で共有していくようにする。

【よい取組みを発表してもらった後の進行者のセリフ例】

「十分に話を聞いていただいたので協力関係の一步を築けたような気持ちになりました」

→「話をよく聞いていただけることが信頼の第一歩ですよ」

「家庭で具体的に何をすればよいか分かりました」

→「実行可能な具体策を提示することで問題解決が進みそうですね」

「一緒に頑張っていたと聞いていただいたのが嬉しかったです」

→「協力関係を築いていけそうですね」

2回目の演習へ

「それでは同じ事例で役割を替えて2回目の演習を行います。ぜひやってみたい役を積極的に選んでください。では2回目の役割を決めてください(1分)。役割は決まりましたでしょうか。それでは1回目の演習を基にして2回目の演習を行います。目標は信頼関係のきっかけを作ることです。上手にやろうとは考えずに取組んでください」(3分)

以下、1回目と同じ

全体での振り返りでは班の取組みを称賛し、よい取組みは全体で共有していくようにする。

各グループの振り返りを生かして、後半の演習や2回目の演習を行うようにする。

〈参考文献一覧〉

- | | | |
|------------------------------|-------|--------|
| ◇ 生徒指導提要 | 文部科学省 | 教育図書 |
| ◇ カウンセリングの技法 | 國分康孝 | 誠心書房 |
| ◇ カウンセリングの理論 | 國分康孝 | 誠心書房 |
| ◇ “困った親” への対応 こんなとき、どうする？ | 嶋崎政男 | ほんの森出版 |